

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

令和7年度全国学力・学習状況調査における市川市の結果分析(その1)

毎年4月に、小学校6年生、中学校3年生を対象に実施される標記調査について、10月22日に市川市の分析結果を公表しました。今回から2回に渡って、ポイントをお伝えします。詳細は下記 HP でご確認ください。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/common/edu07/file/0000498271.pdf>

1. 分析・解釈の方向性(1頁)

(1)平均正答率のみに捕らわれない

各教科の平均正答率は、あくまでもその集団の平均値に過ぎません。それよりも、その集団の正答数の分布状況について、箱ひげ図などにより、多面的に分析・解釈した方が有益です。

(2)学力と一定の関係が見られる質問項目を抜粋

児童生徒質問調査及び学校質問調査では、約 80 項目を質問していますが、今回は、学力に影響のある事象を取り出して分析・解釈しました。具体的には、相関係数の絶対値が 0.2 以上であることを目安とした「学力との間に一定の関係」がみられる項目から抜粋しています。

2. 教科の学力に関する調査結果

(1)小学校(2～4、13～17頁)

国語、算数、理科ともに、正答数の分布は、全国と比較して下位層が少ない良い傾向です。しかしながら、国語、理科では、短答式と記述式の問題が全国平均を下回っています。さらに、正答率が低い問題は、全国平均に比べて無回答率が高い傾向がみられます。

(2)中学校(5～7、18～22頁)

国語、数学、理科ともに、正答数の分布は、全国と同等の結果です。小学校と同様に、国語、理科では、記述式の問題が全国平均を下回りました。また、正答率が低い問題は、全国平均と比べて無回答率が高い傾向がみられます。

3. 「学力との間に一定の関係」がみられる教科に係る児童生徒質問

(1)小学校(2～4頁)

①学習に対する興味・関心や授業の理解度等

全国平均よりも好成績にも関わらず、「勉強は得意」「授業の内容はよく分かる」といった質問に対する肯定的な回答が少ないです。教科の学習に対する自己肯定感が低いのかも知れません。

②授業の進め方等

以下の質問に関して、全国平均よりも肯定的な回答が少ないです。授業の進め方などを見直す余地がありそうです。

- ・国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか
- ・国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか
- ・算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか
- ・小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか
- ・理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか
- ・理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想(仮説)を考えていますか
- ・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか